

試験会場名：東京
受験外国語：中国語
試験開始時刻：午前 10:40 ごろ

質問内容

1. お名前は
2. 風景の美しい温泉に行きたいのですが、どこへ行けばいいですか。
3. 日本の伝統工芸品について紹介してください。
4. 日本のスポーツについて紹介してください。
5. 日本の電車は時間どおりに来ますが、それはなぜだと思いますか。
6. 通訳案内士として、どういうことに気をつけたいと思いますか。(日本語)
7. 知らないことについて聞かれたら、どう対応しますか。(日本語)

受験の感想

ネイティブスピーカーの中国人女性と、日本人男性が審査官でした。中国人女性は穏やかな表情で、私が入室するなり「別緊張、別緊張(緊張しないでください)」と何度もおっしゃってくれました。特にものすごく緊張していたつもりはないのですが、そう見えたのかもしれませんが。別室で待機しているときまでは全く緊張していなかったのですが、最後に面接会場となる教室前に案内され、椅子に座って自分の順番を待っているとき、中から前の方がすらすらと答えているのが聞こえてきたので、そのときはさすがに緊張の波が襲ってきました。

入室して最初に聞かれたのが「お名前は？」で、そのあとに出身地を聞かれるのかと思っていたらすぐに第一問に入りました。どこで中国語を勉強したのか、とか聞かれたら自分のことなのですからすらすら答えられるし、リラックスして会話に入れると思っていたので、そこはちょっと計算違いでした。

2の質問は、典型的な回答かもしれませんが箱根と答えました。富士山が見えること、温泉旅館によっては富士山を見ながら温泉を楽しむことを理由に挙げました。3の質問は適当な例が見当たらず陶磁器を挙げました。すると中国人女性の審査官が「ほかにも漆塗りなどがありますね」と最後に助け舟を出してくれました。4の質問は相撲と答えましたが、あとから考えると「国技」としてのスポーツを聞かれていたのか、単に日本人が好きなスポーツを聞かれていたのか、きちんと質問の内容を理解していたかどうか心配になりました。というのも、女性審査官が「それは日本人がみな好きなスポーツですか」と聞いてきたからです。あと「あなたはそれを見たことがありますか」とも聞かれました。5については、「なぜ」と聞かれて困ってしまいましたが、悩んでいても仕方がないので「おそらく日本人の民族性と関係があるだろう」と答えるしかありませんでした。6と7は日本人審査官による日本語での質問でしたが、どこまでうまく答えられたか自分でもかなり心配です。もっと長く説明したかったのですが、簡単に答えたところで、「もう時間ですので、これで終了します」と言われて終了となりました。

質問に対して余り間をおかずに答えようと思っていたので、とにかく「話した」という感じです。もちろん回答は、上記のような端的なものではなく、まず一つの回答を挙げて、それに説明を補足するという感じではあったのですが、それがきちんとした回答になっていたかどうかは

とても心配です。中国語を話すことにとくに抵抗はないので、あまり暗記したような回答にならないようにと、敢えてパターン化した回答は用意していませんでした。ただ、それゆえに回答がとりとめのないものになってしまったのでは、という懸念もあります。

ハローさんから購入した二次試験の過去問集(英語版)は面接の直前までチェックしていました。あと、予想問題もプリントアウトしたものを持っていきました。同じ質問は出ないかもしれないけれど、どういう質問に対して、どういう回答が「模範的」なのかを知る上で、とても参考になりました。